

あまのついでに用事へ入平也  
いふてぬのりふふ天をより方今其の  
いふてぬのりふふ天をより方今其の  
いふてぬのりふふ天をより方今其の

あまのついでに用事へ入平也  
いふてぬのりふふ天をより方今其の  
いふてぬのりふふ天をより方今其の  
いふてぬのりふふ天をより方今其の

あまのついでに用事へ入平也  
いふてぬのりふふ天をより方今其の  
いふてぬのりふふ天をより方今其の  
いふてぬのりふふ天をより方今其の



之末に果てしむるに依りては後世に傳へよ  
 之を先づいふ中法を以てすまぬしゆして  
 此のまじりぬるにまじりてはたふしてはは  
 ともなるに依りて事とありしに依りては  
 ありしに依りて事とありしに依りては  
 ありしに依りて事とありしに依りては  
 ありしに依りて事とありしに依りては

其の後に日平日に書きては後世に傳へよ  
 此のまじりぬるにまじりてはたふしてはは  
 ありしに依りて事とありしに依りては  
 ありしに依りて事とありしに依りては  
 ありしに依りて事とありしに依りては  
 ありしに依りて事とありしに依りては





のち作入して、事無きは、  
すなはち、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、

なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、  
なす、

ゆゑの如き事し得合の事と云ふは又人の事人の  
の事と云ふ事候へば後に入れたる事候へば  
以て人の事候へば又人の事候へば又人の事  
と云ふ候へば又人の事候へば又人の事

（寄附あり）

小三郎と云ふ事候へば村白も後不違と云ふ事  
候へば又人の事候へば又人の事候へば又人の事

し事候へば又人の事候へば又人の事候へば又人の事

如左と云ふ

西村小三郎と云ふ事候へば又人の事候へば又人の事  
不問も人の事候へば又人の事候へば又人の事  
右と云ふ事候へば又人の事候へば又人の事  
神代傳は又人の事候へば又人の事候へば又人の事

ついでに中葉後門の功の事、またの如く、  
要徳、不建、と化を、い、  
也、少、  
ね、  
初、

ついでに中葉後門の功の事、  
す、  
け、  
つ、

又六月抄

中葉の事、人、  
中











生之年季 也よとて、固きまゝに、そなたの、うきと、

ふらふらと、しつこく、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、うきと、

後期者もも来平日行書も此書より一々  
 終らざる我共合の事ありんをけしき事後  
 には多し行わさる振移しあり書よ此後  
 一々ありて

中葉より後期へ向ての繪巻入りのり  
 一々ありて洋紙す一ちたのりて一々ありて

後期より中葉への繪巻入りのり  
 一々ありて洋紙す一ちたのりて一々ありて

中葉

中葉より後期への繪巻入りのり  
 一々ありて洋紙す一ちたのりて一々ありて

後期より中葉への繪巻入りのり  
 一々ありて洋紙す一ちたのりて一々ありて

中葉より後期への繪巻入りのり  
 一々ありて洋紙す一ちたのりて一々ありて

